

第3回 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理委員会記録

日 時 平成 28 年 5 月 31 日 (火)
午後 7 時 ~ 8 時 30 分
場 所 田無総合福祉センター第3会議室

<出席委員>石橋尚、岩崎智之、榎本めぐみ、熊田博喜、畠山昭裕、土方孝一郎、三輪秀民
吉田真也

<欠席委員>伊藤正子 (敬称略、五十音順)

<事務局>池田正幸(事務局長)、丸木 敦(総務課長)、鶴野浩至(総務課主幹)
小平勝一(福祉活動推進課長)、浜名幹男(福祉支援課長)
妻屋良男(福祉活動推進課長補佐)、小口浩司(総務課法人運営係長)

<議 題>

○事務局長より、職員の人事異動に伴い、出席職員の紹介を行う。

1. 前回議事録の確認

委員長：事務局より確認をお願いしたい。

事務局：通知文書と一緒に議事録を発送し既に確認いただいていると思うが、本日は資料として配付していないため、今週の金曜日(6月3日)までに加筆、修正があれば事務局までご連絡いただき、それをもって確定稿にさせていただきたい。

委員長：今、修正などあればお伝えいただければと思うがいかがか。

特になければ、今週の金曜日までに再度確認し、加筆、修正があれば事務局に連絡してください。

☆委員より連絡が入らなかったことにより、議事録案を確定稿とする。

2. 各推進部会の取り組み(進捗状況)及び「Action~今後改善できること」について

①居場所づくり部会

・進捗状況

委 員：これまで進行管理委員会でも、「人」「金」「物」「情報」4つの視点で報告してきた。それぞれ苦戦してきたが、だいぶ改善されてきた。

「人」については、部会スタッフは現在4名であり、他の部会から1名、部会員にはならないが協力はするという方が1名、合計6名でローテーションを組んで居場所を運営している。

昨年度、ふれまちルームではスポット的に居場所づくりの行事を実施したが、今年度は社協の新規拠点である「ほっとハウスみどり」において、毎週水曜日の1時半から4時までサロンを開設している。

かなり人的には厳しい状況であり、長続きさせるためには、ローテーションで回さなければならないと考えている。

「物」については、拠点が開設されたのでだいぶ改善されている。

「金」については、参加者からひとりあたり100円いただいて飲み物やお菓子を提供している。お菓子については持ち寄りで賄ったこともあったが、今後は市の総合事業の補助金を申請していて、これが認可されるとかなり活動ができるようになると思われる。

高齢者だけではなく、子どもの参加もあるため、けがなどの恐れがあり、保険に加入したい。

「情報」については、施設や地域包括支援センターと連携していくことを考えている。また、総合事業の補助金をいただくようになれば、これから色々なところに情報を提供していただけるということなので、新たな利用者に来ていただくということに対してプラスになると思う。

現在の利用者数は、1日に平均して14、5名、そのうち小学生が4、5名、一番多い時には18名と、かなり盛況である。

どのような方にも来ていただける場所にすることを目的にしているため、地域

包括支援センターの職員に連れてきていただいている人が、その後ひとり来ていただけるようになるためにはどのように改善したらよいか検討している。例えば、その方を迎えに行くためのボランティアスタッフを確保するなど。

28年度に関しては、年末年始や祝日以外は毎週水曜日に実施する予定。

地域福祉活動計画では、8カ所実施するとなっているが、実践してみてそれは無理だと考えている。そのかわりに、現在実践している活動についてマニュアル化する方向で考えている。

その他には、他のサロン活動の見学も予定している。

・「Action～今後改善できること」

委員 長：参加されているメンバーは固定化されているか。

委員：固定化はされていない。初めての方もいらっしゃるし、施設などにも繰り返し声かけしてようやく来ていただける方もいる。

委員 長：拠点の「ほっとハウスみどり」は、とても広く、良い場所を確保できたことは居場所部会としても良かったと思う。

委員：自分も行かせていただいて気づいたことは、外看板が目立たないことである。活動中は窓が開いていたので活動しているのがわかったが、それ以外は中で何をしているのかわからない。

もう少しわかりやすい看板にしないとせっかくの活動がもったいない。

委員：今の活動は、社協の活動拠点を借りて行っているので、社協にはもっと大きな看板をつくるなどの改善を是非ともお願いしたい。

事務局：先月の拠点運営委員会において案件として挙がっているので、可能な限り対応していきたい。

委員：学生さんに居場所づくりの協力をお願いできないか。

委員 長：周知することは可能ではあるが、実際活動に参加するように強制することはできない。

委員：自分自身も社協に社会福祉士の資格取得のための実習に行ったことがあるが、部会活動への参加も実習プログラムの対象にならないか。

委員 長：この委員会ではそうしますと確約することはできないと思う。
実習のプログラムについては事務局でも検討してほしい。

委員：看板の設置について、近隣の方たちの配慮があってできないのかどうか。

事務局：大家さんとは具体的な交渉が出来ていないが、大家さんと近隣の方たちの了承が得られれば、後は予算の問題になる。

委員：近隣の方がそこでサロン活動をしていることをご存じであれば、看板を掲げて広く知らせること自体に問題はないと思う。
是非わかりやすい看板にしていきたい。

事務局：2月に行った拠点のオープニングセレモニーでは、近隣の方も顔を出していただくことができたので、拠点に対しては好意的だと思う。
看板については、これから大家さんと交渉していきたい。

委員：拠点の中に入れば活動内容がわかるチラシが置かれているが、外には掲示がされていないため、どの曜日に何をされているのか外に表示されていた方が良いのでは。

委員：他の拠点では掲示板が外にあるところもあるようなので、社協には要望を出しているところである。拠点の運営委員会の中で、使っていないホワイトボードがあるので使ったらどうかとの提案もいただいた。お金を出さなくても出来ることはある。

委員 長：備品の整理については看板の設置も合わせて一体的に取り組み、優先順位をつけて、拠点運営委員会と社協で整理して、実行してほしい。
重要な課題が取り組みの中から見えてきたということなので、今後検討していきたい。

②人材部会

・進捗状況

委員：部会を立ち上げてから1年が経過した。これまで、模擬的に講演会や父兄の合唱隊と認知症の方のサービス付高齢者住宅とを結びつけるような行事を実施した。

行事におけるスタッフの動きについては問題ないが、人員が不足している。現在は、講義や講演、特殊な技術で物を作ることができる人などを一件一件あたっている。

また、迎える施設側の会場やその施設にどのような方がいるのかを確認するために訪問も行っており、受け入れ側に応じたプランを立てて行事を実施しないとけないと考えている。

今回動いてみてわかったことは、社協が用意した申込書を相手方に作成してもらうのに非常に時間がかかることである。内容が抽象的なところも多く、記入しづらいので工夫が必要であると考えている。

これまでの成果としては、申込書を記入してくれた受入施設が5件、趣旨を説明して理解していただいたのが17件、検討中が3件となっている。

断られたところは1件もないのが成果だと思う。

講義や講演、技術を持っている人で申込書記入者は10件、出演希望者は14件、検討中は3件、断りは1件、未定は3件あった。

多種多様な人が集まったので、受け入れ側のニーズを聞きながら調整した方が効率が良い。

これからの取り組みとしては、高齢者のファッションショーや児童施設において、ふれあいセンターに来ている技術者による物作りの実施などについて考えている。

最初は受け入れ側の要望で動いていたが、それよりも部会から施設に合うと思われる数人を提案すればうまくいくと考えている。

予約が既に4件入っており、スタッフは現在5人で、10人以上いないと対応できない。今のところは自分が中心に動いているが、役割を分担していかないと偏った組織になってしまうと思う。

今後この活動が評判となれば、自分のところでもやってほしいという場面が多くなることが予想されるので、体制についても検討していきたい。

・「Action～今後改善できること」

委員：施設を対象に実施することが目的なのか。施設を対象にするということは、施設の人だけが観るということになるのでは。

地域活動、例えばふれまちなどで披露してもらうのはどうか。

委員：高齢者施設の場合は入所者とその子どもたちがおり、普段とは違う入所者の表情が見られるというところが良いと言われている。施設だけではなく、社協の拠点でファッションショーを実施する予定である。

委員長：人材部会の取り組みは、地域の中の人材を発掘して、地域の中で活躍できるような仕組みをつくることだと思う。

サロンなどの活動にも着目されていると思うが、まずは施設に地域住民が入ることによって互いに交流を図ることもできるのではないかと。

社会福祉法人としては、社会貢献活動について言われているところなので、実験的な部分もあると理解している。

話をお聞きして大変だと思う部分は、コーディネートの部分である。1回企画を実施するためには受け入れ側と活動者をコーディネートしなければならず、当初は考えていなかったことなのではないかと思う。それをするためには現在の人数では少ないと思うので、人材部会の人材確保をどうするかが今後の課題であることに気づくことができた。

委員：すごく努力をされていて、人材にしても活動先にしても、とても積極的に開拓されていることがわかった。

地域活動には様々あると思うので、コーディネーションの力を発揮できる方もいるかもしれないし、これくらいならできるよと言ってくれる方もいるかもしれないということを委員の話を伺っていて感じた。

委員：自分の入っている公民館サークルの参加者にも声をかけていきたいと考えている。

自分が取り組んでいる公民館活動の参加者は最終的にどこに行っているのかを考えた時に、ほとんどの方は趣味の世界で終わってしまっている。

活動の場所が無いので終わってしまうこともあり、もったいないと考えていた。そうした人たちが地域で活躍できないかという発想から取り組みを進めてきている。

委員長：今後地域の取り組みとしてこの活動を広げていくために、委員の持っているノウハウを蓄積して委員以外の方でもできるようにするためにはどうすればよいかなど、見えてきた課題もあるので、継続して検討していきたい。

③情報部会

・進捗状況

委員：情報部会は、地理的に近い人と人とをつなぐことによって地域課題の解決を図ることが大きなテーマとなっている。

取り組みとしては、一時的な行事を開催するのではなく、情報を回すネットワークをつくり、それを継続的に維持していくことを考えている。

具体的にはアナログな情報（回覧板）を定着させること、デジタルな情報を活用してアナログの情報を拡散させること、流す情報を集めることという3つの柱に取り組んでいる。

デジタルな情報については、アナログな情報が動いてからでないとは実施できない内容であるため、これまでは取り組んでいない。

また、必要な情報を集め広めるという部分は、一部は動いているが、計画に記載されている内容については実施していない。

情報部会としては、これまで回覧板の再活用に取り組んできた。

27年度についてはテストトライアルとして、自治会に協力してもらい実施できた。結果としては、想定していたようには動かなかったため、今年度からは新しい方法を試していきたいと考えている。

また、武蔵野大学、日本社会事業大学などの大学や青年会議所に対して会議への参加協力依頼も行った。

回覧板に載せる情報の一つとして地域のお店に協力してもらいクーポン券を集めて発行した。

今年度については、市協働コミュニティ課にも協力を依頼していきたいと考えている。

回覧板を実施したのが、田無駅周辺の地区で、この地区を選択した理由としては、クーポン券を回覧板のツールとして考えており、情報が集めやすいのではということ、それから一から回覧板を回すということは大変なので、きちんと回覧板が回っている地域であるということであった。回覧板を実施してみた結果、予想以上に町内会が動いていないことがわかった。

この結果を受けて、次回については違うエリアでの実施と田無駅周辺エリアでももう一度実施することを検討している。

エリアを変えるということについては、地域福祉活動計画推進部会の全体会で、少しずつでも三部会の活動を集約していこうという意見が出されていたため、他の部会が活動している地域を考え、緑町のエリアで取り組んでみたいという意見が出ている。

情報部会についても他の部会と同様に人材不足という課題はあるが、デジタルの情報については、大学生と一緒にフェイスブックのページを作って配信していこうということになっている。

情報集めについては、周辺地域の情報や他の部会の状況についてフェイスブッ

クにアップしていくことで、活動に興味を持っていただいで参加者を募りたいと考えている。

・「Action～今後改善できること」

委員長：クーポン券の結果について教えてほしい。

委員：全部で15件提供していただいで、実際に使っていただいたのが飲食店や時計の電池交換などであった。

クーポン券は2回地域に配布している。1回目は町内会地域に回覧板実施の周知のために全戸配布し、2回目は回覧板に入れて配布した。

一緒にアンケートも配布したが、1回目の配布での反応は3件くらいしかなかった。クーポン券が使われていたなので、資料は見えていただいでいることは想像できる。ただ、配布件数が1,200軒ほどであったので、あまり見えていただいでいないとも言える。

委員：全体をとおして、部会の皆さまにはネットワークを作っていただいでいると感じている。それぞれの部会が別々に取り組んでいるが、上手に融合できればより良くなるのでは。

市でも地域福祉計画の中にほっとネットがあり、まさにネットワークを組むことに取り組んでいるので、方向性については間違っていないと思う。

委員長：まずは取り組んでみるということが大事だと思う。

地域福祉活動計画の取り組みをうまく進めることができれば、そのノウハウを蓄積することで、他の地域でもそれを移植して取り組むことができるようになるのでは。

また、うまくいったことをまとめていただくことで、次の第4次地域福祉活動計画にもつながっていくと思う。

(委員長からの提案)

委員長：地域福祉活動計画に書かれているとおりに取り組みの成果を評価すること、例えば、地域に居場所を8カ所つくるということに対する評価などはあまり建設的ではないと思う。

取り組みによって地域がどのように変わったのかというような視点の方が重要だと思う。例えば居場所づくりをすることでその町の中でどのような役割を果たしたのか、そこにどのようなつながりができたのかという方が重要なのでは。そのような視点からも評価はできないかと考えている。

それと合わせて、手がつけられていない柱について、もう一度柱の建て方についても見直した方が良いのではと考えているがいかかが。

今後の進行管理委員会の進め方も含めてご意見をいただきたい。

委員：活動されている方にとって、地域が良くなったという評価も正しいと思うが、抽象的すぎるので、これだけの人数や金額でこのようなことができたという数字についても評価した方が後々を考えても良いと思う。

これだけの人数がいたらこれくらいできるのではという発展性にもつながるのでは。

委員長：活動計画の中には目標数値が盛り込まれている。その数値をどう取り扱うのかということの難しさがある。

この人数では、この目標数値の達成は無理だったということは示せるが、何人だったらどうできたのかということを示すかが課題だと思う。

委員：実際に計画を推進していくために推進部会ができた。地域福祉活動計画の策定委員から推進部会への参加に手を挙げた人は半分くらいいたと思う。

推進部会で活動している者としては、どこまで責任を持ってやらなければならないのか。

社協の職員であれば、計画を立てて責任を持って推進することは仕事そのものだが、私たちはボランティアであり、真摯に計画を遂行しようとしている。色々やってきているが、いつの間にか別の目標が与えられているような気がする。市民にどれだけ影響を与えられたのかというのは、責任者の側から見れば必要かもしれないが、ボランティアでやっている人たちにとっては目標が与えられ

責任を持たされているように感じてしまう。

委員 長：地域にどのような影響を与えたかということは責任ということではなく、そもそも活動計画をつくることの意味を考えた時に、個人的な意見ではあるが、例えば居場所をたくさん作るということが目的ではないと思う。地道に取り組むことによって例えば孤立した高齢者が外に出てきたとか地域につながりができたとかが仮にあったときに、それが地域に影響を与えたということになると思っており、それを形にできればと考えている。

地域福祉活動計画は地域を作る計画だと考えているので、そうした観点を持つことが大事なのでは。

委員：例えば、地域にアンケートを配って活動内容を評価することも考えられるが、あまり活動を知らない人に評価されるのもどうかと思う。

委員 長：例えばサロンを利用されている方にアンケートを取るということも考えられるのでは。

事務局：計画にある数値目標については策定委員会の中で合意されたものではあるが、実際にやってみてどうだったのかを照らし合わせてみると、その目標値が問われてくると思う。

今の段階で例えば8カ所は無理だということであれば、8という数字は5年間で完成させなければならない数字ではなく、出来なければ第4次の計画に引き継いでいかれていくものだと思っている。

また、数値以外の成果については、その取り組みを考えた時に、このようにあってほしいからこういう取り組みが必要だということで策定委員会から出されたものである。

例えば、居場所をつくるという部分では、誰でも来られる場が求められており、住民同士で話し合い解決につなげられるような場の必要性について書かれている。そのような場になっているのかどうかは問われてくるのでは。そういうところに振り返って成果はどうだったかを考えていただいた方が良いと思う。次回事務局より提案させていただいて検討していただければと思う。

委員：計画に携わった者としては、数値は残していただきたい。また、計画についても基本的には変えないでいただきたいと思う。

実際に最後の段階ではこの数字と計画がどうだったのかを振り返りたいし、成果とは必ずしもうまくいったことだけが成果ではないので、うまくいかなかったことも何故うまくいかなかったのかを振り返られればノウハウになって次につなげられると思う。

委員：人材の活用については実際に施設ではやっていることなので、自分としては、それを越えたいと思っている。

「社協にお願いして良かった」と言われるようにならなければいけないと考えている。

委員 長：ご意見をいただいたとおり、基本的には現計画のままで進行していくこととし、その中で成果物についてあらためてどうするのかということについては次回検討していきたい。

以上をもって、第3回第三次西東京市地域福祉活動計画進行管理委員会を終了する。